インテリア工学研究室

Interior Engineering Lab.

西應 浩司

NISHIO, Koji / Professor

風なびく　――大都市の架け橋――

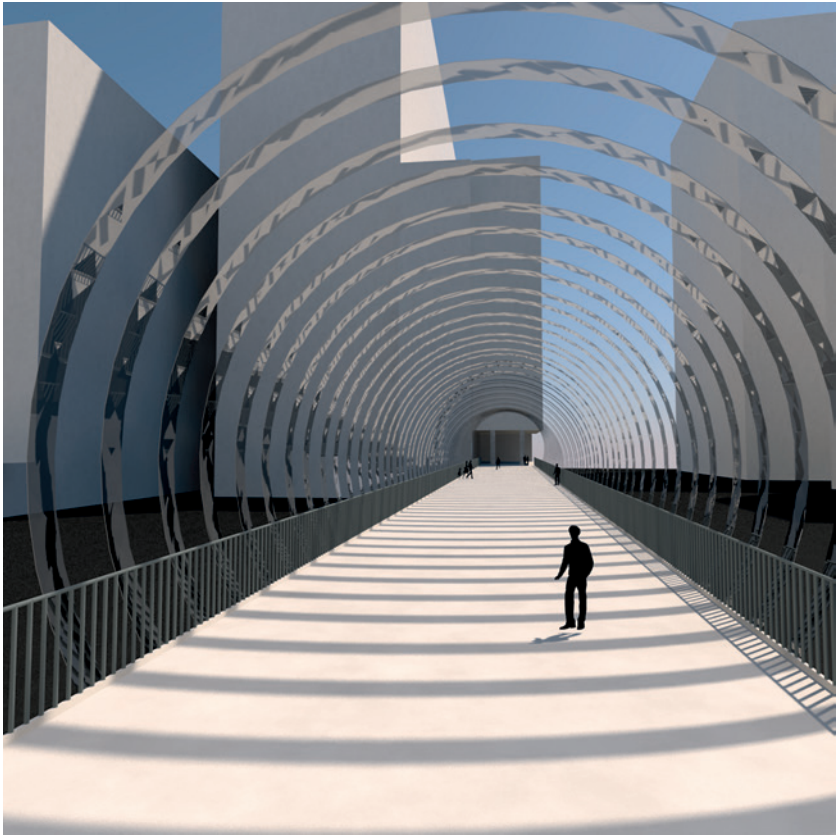
Fluttering in Wind: Bridging Across Metropolis

大都会、大阪。大阪駅を中心に周辺の再開発が行われその発展は現在も続いている。

阪急梅田駅、JR大阪駅の地下は別名、梅田ダンジョンと呼ばれ各ビル群や阪急、阪神百貨店への入り口、泉の広場や飲食店を中心とした店舗群などがあり福島駅、堂島方面にも繋がりが広がっている。

このように地下街は木の根の如く大阪の発展に合わせ成長しているが地上部分は都市部ゆえに人混みや交通量による信号や横断歩道が多く、ビルや商業施設、駅同士では各々の関わりが薄く個として独立している、孤立しているように思えた。そこで地下街にあるような通路の繋がりを地上にも持たせることが出来ないか、混雑する駅周辺の動線の解消につながる空間を提案。

車の喧騒やビルに囲まれた中では感じられない風をより明確に感じられるようなデザインを取り入れ、ただの建物同士をつなぐ連絡橋ではない、繋がる新たな道の可能性。その一助となれば幸いである。



古川　晃
FURUKAWA, Akira

奏 雨　雨が奏でる感情の旋律

kaname: Emotional Tune of Rain

演奏というものは観客を音によって楽しませる手段の一つである。だが、観客は、聴いているだけでは奏者のヴィヴィッドな感情やその変化まで知ることは難しい。

そこで着目したのが「雨」である。「雨」は映画やアニメの中で人物の感情を表す表現方法の一つとしてよく用いられている。この作品はギターを演奏する際のピックによる動作の強弱を電子回路に送る。LEDテープライトの光る速さを変化させることによって降り注ぐ光の雨を作り出し、演奏者の感情を表現することができる。ゆったり弾けば穏やかな感情を、ゆるやかに降り注ぐ光の雨によって表現できる。また、力強く弾けば激しい感情を、速く降り注ぐ光の雨によって表現できる。

演奏者のヴィヴィッドな感情を音と光で空間に放出するこの作品は、観客と演奏者が一体となる時を演出する素晴らしい媒体となるだろう。

芦田 佳乃
ASHIDA, Yoshino

天涯比隣　──リアルとネットの融合──

Feeling as though a Beloved One faraway were Living in Your Close Neighborhood: Fusion of Reality and Internet

服は生活する上で欠かせないものだが、近年ではネットショッピングの流行などによりアパレルの実店舗の閉店が相次いでいる。また、セルフレジの導入や、ネット上での仮想試着など機械的な要素が増えつつある。魅力的なサイン、ディスプレイが姿を消していきつつある時代、機械、情報だけでは人間味がないといったどこか寂しさに似た感情を抱く人もいるだろう。

そこで、これら新旧の異なる販売形態の良さを活かしながら、未体験のショッピングの愉しさがあり、より訪れたくなるような店舗について考えた。

私が提案するのは、魅力的に演出された空間に加えて、機械、情報のもたらす利便性やサービスを享受し、友達や家族と会話しつつ愉しみながら服のセレクトや買い物を可能とする近未来的な実店舗である。

上西 悠空
UENISHI, Yuku

大津百町に浸かる　湯けむりで再生する商店街と歴史

Bathing in Otsuhyakutyou: Steamy Air Revitalizes Shopping Street and Its History

大津百町――東海道五十三次の「宿場町」、琵琶湖水運の「港町」、三井寺の「門前町」という三つの顔を持つ東海道最大の人口を誇る宿場町。中町商店街には、江戸時代から続く魚屋さんや漬物屋さん、その付近には多くの歴史的資源が眠っている。

時代は移り変わり、京都や大阪へ利便性が良すぎるが上にこの歴史ある商店街はシャッター化が進んでいる。

そこで、空き家を利用し、銭湯をイメージの中心とした新しい商店街を提案した。一度訪れれば、身近で親しみの持てる湯けむりの街をコンセプトに、記憶に残る空間デザインや、施設の利用の仕組みを関連させて考えることで、かつて存在したコミュニティーの活性化、集客力の向上を計り、中町商店街にかつての大津百町の賑わいの再来を目指す。

太田 航介
OTA, Kosuke

つなぎふえる光　――生命力をイメージしたデザインできるオブジェ――

Connecting and Icreasing Lights: Art Object that Can Be Designed From Image of Vitality

デザインの力を知り、体験する楽しさを味わってもらうために、使用者が自分の感覚で組み合わせてデザインできる照明器具を考えました。

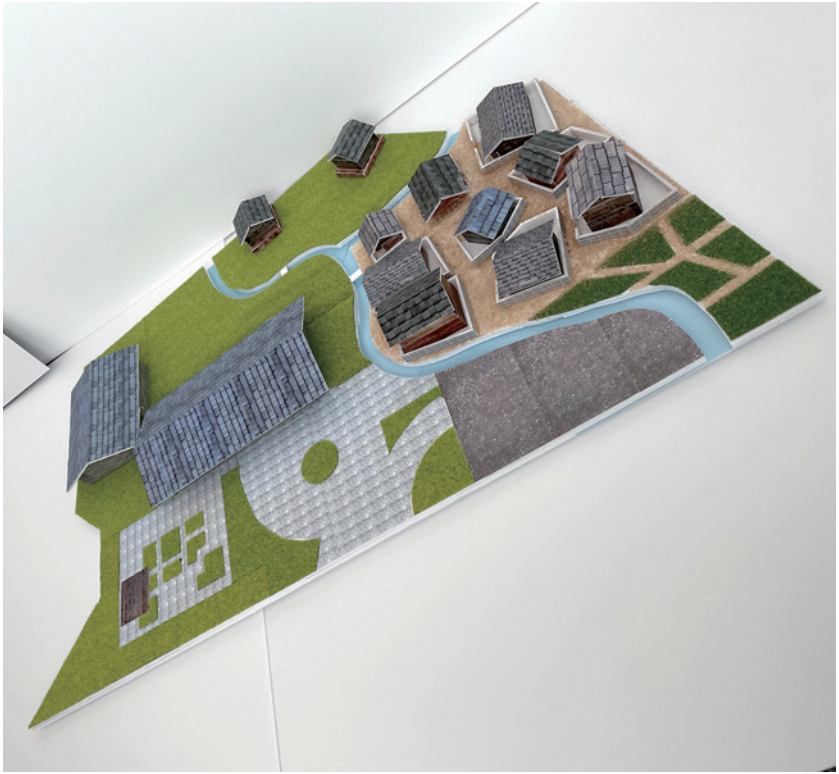
この作品では、空間をポジティブに変えるものとして生物や生命をイメージモチーフにしています。増殖し、空間を自らの存在で満たしてゆくような生物とその動きを球体で表現し、和紙という素材によって生物の細胞膜を表現しています。光、そして、生物の持つ有機的で柔らかなイメージと、自己増殖のイメージを併せ持つ照明器具は、自然界の根源的な力としての「生命力」を空間に拡げます。

あなただけの「生命力」をデザインしてみませんか。

大前 凜華
OMAE, Rinka

街と遊ぶ　──移築空間で楽しむリゾート施設──

Play with City: Resort Facilities in Different Spaces



和歌山県の古座川町にある温泉施設を改装＆移築することにより、古座川町の良さをより体験しに来てもらえるようなリゾート施設を考えた。年々、観光客が減ってきていることから民泊用にあった家などが空き家になっている問題も解決したいと思い、移築を取り入れようと考えた。また、移築することで新しい空間だけではなく古民家で小さな町のような空間づくりにし、高年の方にも利用しやすいようにすることで幅広い年齢層に利用してもらえるような施設を提案した。

佐藤 晴紀
SATO, Haruki

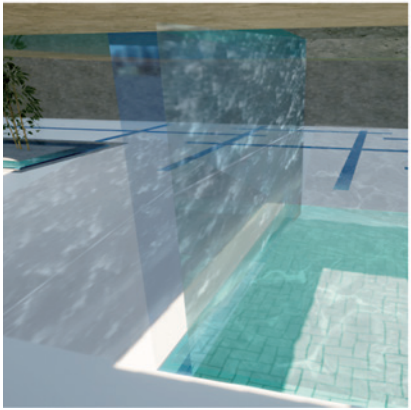
きざはしの水庭　水の様相を楽しむ河岸の空間

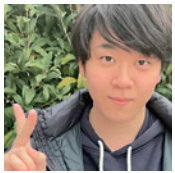
Water Garden on Step: Space on River Bank for Enjoying Differnt Aspects of Water

敷地は大阪にある八軒屋。ここは歴史深い場所であり、昔、貿易で大きく賑わった「八軒家浜」があった。

そして今、大阪は水に恵まれてきた「水の都大阪」として「水と光の首都大阪」という都市魅力創造・まちづくりを目指しており、私はこのまちづくりに貢献できる水辺空間を設計したいと考えた。ここでは物質や形、光と影によって、様々なかたちによる水との触れ合いや、変化に富んだ水の様相を楽しむことができる。また、内部は水面の影が動きながら全体に広がるイメージを得られる仕組みによって、水の中にいるような、非日常的な空間を演出できるようにした。

外部の階段部分はレベル差をランダムにすることで、目の前を流れる大川と周りの景観を様々な好みの視点で楽しむことができる。この階段は不規則で動きを感じるものとなっているため、どのような形にも対応できる変幻自在な水の柔軟さを表している。





曽我 龍之介
SOGA, Ryunosuke

都市型グランピング　積層と隔壁のシースルーホテル

Urban Glamping: See-through Hotel with Laminating Material and Partitions

新型コロナウイルス拡大防止により人の動きが制限され、様々な業界の影響を与えた。その中でもマイナスの影響を大きく受けたのがホテル業界であった。Go Toトラベルなどの対策を行ったが売り上げは全体的に赤字のままであり、ホテル業界は新たな転機が訪れていていると感じた。そこで私は新たなホテルのモデルとして都市型のグランピングホテルを提案する。海や山など自然の中で贅沢な宿泊ができるグランピングだが、自然の中にある以上施設が地方にあることが多いため交通の便が悪く、利用者も若者が多いのが現状であった。今回提案する都市型グランピングホテルは都市にあるため交通の便も良く、従来のグランピングは平地のため横のつながりだけだが、今回のホテルはビル形状のため横と縦もつながりもあるだけでなく、ホテル内の光が外にも溢れが出すことで外部とのつながりもできる。従来のグランピングの良さを取り入れつつ、都市ならではの要素も取り入れた新しいホテルの形である。

高尾 水貴
TAKAO, Mizuki

海の中で　神戸のパンを楽しむ空間

In the Sea: Space for Enjoying Kobe Bread

神戸はパンの年間支出金額が全国で1位になったことがあるほどパンを食べる文化が根付いており「パンの街」と言われるほど多くのパン屋がある。私もパンが好きでよく買うが、時間や移動距離の問題で行きづらいパン屋もある。

そこで、神戸の魅力的なパン屋が何店舗か週替わりで一か所に集まる理想的な場所があると良いなと考えた。パン文化が街に入って来る際、玄関口となった神戸港があるメリケンパークに、パンを買う空間だけでなく、パンを食べる場所や作る場所、パンに関する商品を販売する場所など、パン文化というものを様々なかたちで楽しく体験できる空間を設計した。

この空間が、地域独自の歴史や食文化を取り入れた観光名所の一つとして、より栄える場所になればと思っている。

畠山 芽生
HATAKEYAMA, Mei

本と眠る　森の空間をイメージした泊まれる図書館

Sleep with Books: Forest-like Library where You Can Stay

本を読んでいると、心地よくなり、いつの間にか安心して眠っていたことがある。

本はパルプでつくられており、そのパルプは木からつくられている。そんな木からつくられた本が集積している図書館は身近で安らげる森のような空間かもしれない。

そこで、読書を楽しみながら心地良い眠りに付ける拠り所、図書館に宿泊しているような空間を考えた。この図書館は、昼は訪れた人の拠り所、夜は予約制で宿泊できるような本を楽しめるシステムになっている。

場所は駅から徒歩十分にある広い公園内に位置し、緑豊かで程よく喧騒がカットされる場である。その人々の心を自然とリラックスさせてくれる公園の緑を活かすため、公園に佇む森で自由に本が読める空間をイメージしたデザインになっている。そして、拠り所となる空間を、森にあるぽっかり穴が空いたような太陽の光が届き小さな木が育つ場所（ギャップ）のように考えて表現した。

森本 愛菜
MORIMOTO, Mana

京町家の集合住宅　フレームが織り成す路地と景観

Kyomachiya Housing Complex: Alleys and Landscapes Woven by Frames

老朽化や所有者の高齢化、高い維持費などを理由に、京町家の数は減少しており、京町家の暮らしや文化を次の世代に橋渡しするリ・デザインのアイディアが求められている。そこで、京町家を現代における集合住宅に落とし込み、京町家の文化を引き継ぎながらも、環境的への配慮を行った集合住宅を設計した。風土の気候と文化への対応を行うために、京町家の基本的な形態とグリッドフレームを組み合わせることで意図的な隙間を生成した。隙間は風を通し、緑を育みながら人々の自然で日常的な交流とコミュニティを生む新たな路地となる。グリッドフレームの垂直、水平のラインは隙間によるズレをまとめながら整頓するリズムとなって新たな景観を作り出す。

山下 卓朗
YAMASHITA, Takuro

麗らか　――東海道関宿へと繋がる菖蒲園の宿――

Uraraka: Iris Garden Inn that Leads to Seki-Juku on the Tokaido

東海道関宿。そこは江戸時代における東海道の53の宿場、東海道五十三次の江戸から数えて47番目の宿場の呼称であり1日に1万人もの往来があり賑わっていた場所。

現在は三重県亀山市に位置し、旧東海道沿いに約1.8㎞にわたり当時の宿場の歴史的な古い町並みが残されている。

しかし、観光地としての知名度は高くはなく、昨今の状況下ではたたむ店も増えているのが現状である。

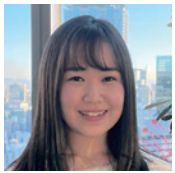
そこで私は関宿へ全国から観光客を取り込み地域活性に繋がる計画を提案したいと思い、亀山市の花である花菖蒲の観光スポットとなるような『菖蒲園』、関宿の空気を感じながら菖蒲園を眺めることのできる『宿』、そして関宿の町並みの1本道から裏道に花菖蒲を少しずつ植え、菖蒲園を繋ぐ『道しるべ』の3つを計画した。

古の宿場町に流れる四季折々の風を感じながら菖蒲園で優雅なひと時を過ごして頂きたい。

インテリア部門賞

山田 菜々香

YAMADA, Nanaka



0から1　写真展示で伝える地球と環境保護

From 0 to 1: Earth and Environmental Conservation Conveyed Through Photo Exhibition

近年、地球環境は著しく変化し、美しい地球の景色が失われ続けています。この変化のさまざまな要因の中でも人間の手によって地球の景色を奪っている部分が大きいと私は感じます。

私は今の地球の景色を未来に残し、過去のものとしたくないという思いでこれまでゴミ拾いイベントやSDGsをテーマとしたフォトコンテストなど企画を行なってきました。その中で私が気づいたのは、地球を護ろうという強い意識を持ち、それを行動に移している人には共通して、“地球環境の変化が自分事になるきっかけ”があったということです。

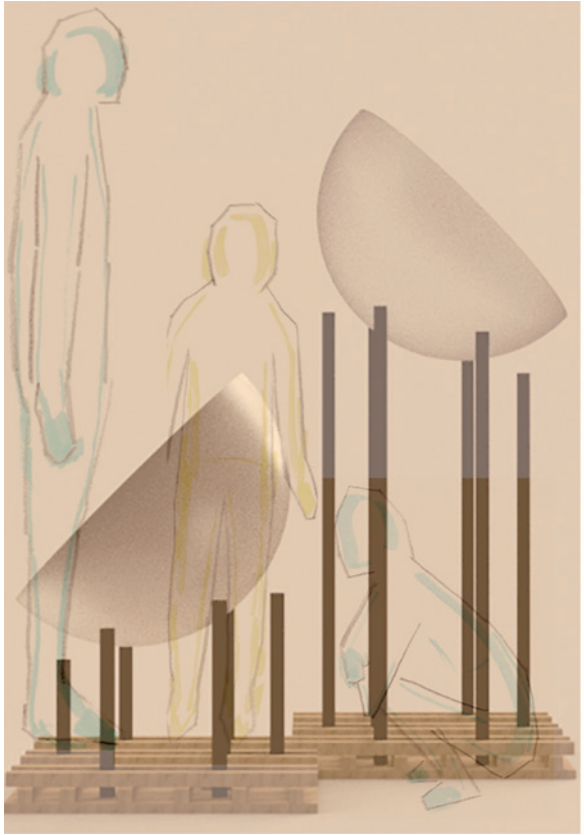
そこで、1人でも多くの人の地球環境への意識が変わり、そして地球環境の変化が自分事と感じるきっかけとなる空間を作りたいと考え、人間の手により失われつつある地球の姿を表現した写真展示空間を提案します。

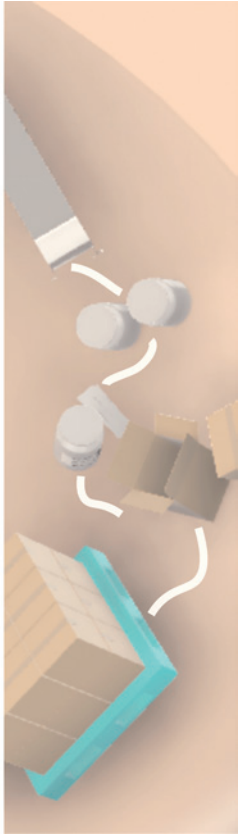
この空間を体験した人々にとって、地球環境の変化が“自分事に思えるきっかけ”を発見してもらえることを私は強く願っています。

山本 達也
YAMAMOTO, Tatsuya

巡る　日常を支える流れの環

Circulation: Ring of Flow that Supports Daily Life





近年、災害時にライフラインという言葉をよく耳にするようになった。ライフラインとは電気・ガス・水道・通信・物流などのことを指し、私達の生活には必要不可欠なものだが、その詳細を理解している人は少ない。

日常生活には普段は気に留めない広がりのある空間や生活に流れ込むような動きなど、興味を持つべき仕組みが多く隠れており、この複雑で面白い流れを分かりやすく縮図として表現したいと考えた。

一目で私生活に巡るライフラインの全体像を認識できるものをディスプレイとして立体的に表現し、見た人々がこの仕組みが自分達にどう関わっているのか、興味を持つきっかけになるようにした。

内村 円香

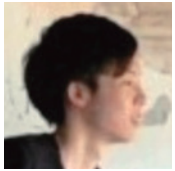
UCHIMURA, Madoka

日本を感じる地下通路

Underground Passage for Feeling Japan

都市部では開発が進み公園などの憩いの場がなくなっている。この土地不足を解決するべく私は地下に公園を造ることを提案する。地下公園はニューヨークですでに計画が立てられている。私はニューヨークの計画とは違い日本式の公園を梅田の地下に造ることを提案する。梅田の地下は通路としての役割が大きい。また、日本の庭園は回遊性がある。この共通点を用いて地下公園を提案したい。

地下に居ながら日本を感じることができる、そんな地下公園を目指す。



一色　惇

ISSHIKI, Jun